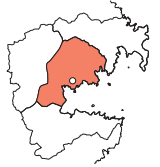


命を守る拠点再生 台湾の熱い友情



▲南三陸病院・総合ケアセンター南三陸の前に設置された台湾への感謝を表す石碑。

2015（平成27）年11月25日の落成式には、中華民国紅十字会（台湾赤十字）の王清峰会長（当時）（右から二番目）も参列した。（右端は梁毅鵬 台北駐日経済文化代表処 顧問（当時） 中央は佐藤仁 南三陸町長 左端は櫻田正壽 南三陸病院長（当時））

2015（平成27）年12月14日、「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」が高台の志津川地区に開業した。南三陸町の医療拠点だった公立志津川病院は、5階建ての建物の4階まで浸水し、患者と看護師合わせて74人が犠牲になった。

命を守り支える場所の再生が急がれた。新病院は、内科や外科、小児科など10科の診療科を備え、病床は90床。また、保健福祉課、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、南三陸町社会福祉協議会、子育て支援センターなどの機能がこの施設に集約された。

新病院の建設費用を支えたのは、台湾から寄せられた義援金だった。建設費約56億円のうち、約4割に当たる22億2,000万円が中華民国紅十字会（台湾赤十字）からの寄付である。



▲南三陸病院・総合ケアセンター南三陸全景

これを機に南三陸町と台湾は相互に訪問し合い、友情を深め合ってきた。台湾から南三陸町観光協会にインターンが派遣されたり、台湾から学生たちが教育旅行で訪れ民泊を体験するなど、住民たちとの交流は深まっている。